

## さぬき市から高松市に行進は進む!! みんなで歩けば10キロも!!!

出発時は雨、大山市長は雨中の行進だが、ロシアの侵略の涙雨かもと指摘。改めて久しぶりの「歩く」行進に敬意を表し、平和を積み上げるとのスローガンを教訓に、日本でも真の平和を積み上げようと呼びかけ、さぬき市も平和が基礎と強調し、行進の安全を祈念して挨拶としました。

朝の行進参加者は、今日は6人が初参加。感想を聞くと「以外に手振が多い」とか「初めて聞く音楽だが、いい!」との感想でした。

### 行進車運行

国道11号線は、東讃地域の幹線道路で交通量は大変なものです。おまけに雨。後続車に気を使いながらの運転はなかなかハード。特にトラックが後続にいると緊張はさらに高まります。しかし対向のトラックが、止まってくれて後続のトラックの前進に協力してくれます。高松市内に入ると、後続車が路線変更で、バスの様に優先道路の協力や、ハザードランプで行進に意思表示。対抗車に両手を合わせると、手を振ってくれ連帯感も生まれます。そんな反応も、行進アナウンスでの「平和・ウクライナ」の流しに共鳴している証拠。大変な緊張感を伴う運転も事故なく頑張りたいもの。

### 高松市役所での終結集会

主催者は檜昭二平和委員会筆頭代表が、市役所からの来賓にお礼を述べた後、行進の感想踏まえ、ウクライナへの関心が高く、市民の共感や共鳴を感じたと発言。これからも高松市の平和活動への支援を願って挨拶としました。

高松市人権啓発課の佐々木啓明次長は、2022年の行進に敬意を表した後、ロシアの侵攻やアメリカの核兵器の未臨界実験を指摘して、高松市も1984年の非核都市宣言をはじめ平和を求める活動に今後とも取り組みを強めると強調。また高松市平和記念館の青木英城館長が参加。

岡田まなみ行進者は、牟礼支所からの10キロを歩きましたが、「みんなで歩けば大した距離でない」と喝破。山口さんの経験、長野県の30キロも頭にあつたのかも。

原爆被害者の会の森岡智子支部長からメッセージで、平和行進の15日で大きなウネリを作ってほしいと激励を頂きました。なお高松市牟礼センター長から出発集会(午後)挨拶頂きました。



さぬき市長と原爆アオギリ背景に



高松市役所での終結集会